

グランドセイコーが刻む

「時のモノ語り」 第九回



祝福の時間

作家 矢島裕紀彦

あれから一年が過ぎた。僕は高原のロッジの窓辺の椅子に妻と並んで腰掛け、古いアルバムを開いている。そこには記念日ごとに成長した娘の姿がある。父親の自分が言うのもおかしいが、美しく愛しい。その娘も良縁に恵まれ嫁いでいった。

窓の外は柔らかな秋の陽に包まれ、涼風が落葉を踊らせ、梢で四十雀が囀る。僕は左手首の腕時計に目をやる。僕はTVディレクターとして、日本のモノづくりの魅力に迫る番組に長く携わってきた。その中でもっとも心に残ったのが、このGSのロゴの入った時計だった。つくり手たちの語りは熱く誇らしげで、愛用者たちの声も印象深かった。先頃、僕の肩書に「取締役」の三文字がついた。僕はその記念に憧れの時計を手に入れた。

僕は真新しい腕時計の時間を読み取る。この時計は、二つの国の時刻を同時に表示するGMT機能つき。短針と長針の位置は通常通り日本の時分を示し、24時針は米国ロサンゼルス※の現在時刻を指し示している。ほら、いま、予定通りロスから電話がかかってきた。

「おはようございます、お父さん。今朝早く無事

※GMT (Greenwich Mean Time) 機能とは、時針と24時針がそれぞれ別の時刻を示すことで、時差のある2つのタイムゾーンの時刻を表示できる機能です。

「グランドセイコーが刻む「時のモノ語り」」は、

アエラスタイルマガジンWebでもご覧いただけます。 <https://asm.asahi.com/>

※この作品には実在の人物名が登場しますが、この物語はフィクションです。

Text: Yukihiro Yajima Photograph: Tetsuya Niikura (SIGNO) Styling: Eiji Ishikawa (TABLE ROCK STUDIO) Illustration: Hiroko Takashino Art Direction: Yusuke Nagumo (newt) Direction: AERA STYLE MAGAZINE